

Title	編集後記
Sub Title	
Author	平良, 沙織(Taira, Saori)
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2010
Jtitle	新版 窮理図解 No.3 (2010.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000003-0008

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

科学・技術と映画

今回特集した三木専任講師は研究を触発された映画として『ミクロの決死圏』をあげています。

これは1966年の米国映画で、脳内出血を起こした要人を救うため医療チームが縮小された潜航艇に乗り込んで体内に入り込むというストーリーです。CGなど存在しない時代に幻想的な人体の内部を創り上げ高い評価を得ました。

科学・技術をテーマにした映画というと、『アバター』やこの映画のようなSFものがすぐ連想されます。日本でも漫画『鉄腕アトム』に刺激されてロボット研究者になった人が多くいます。

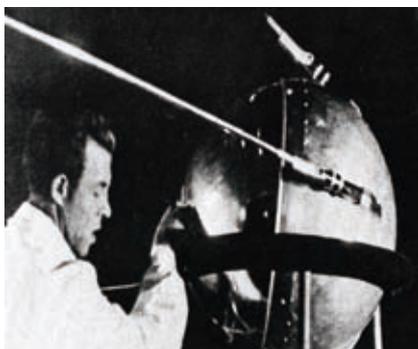
しかし、SFやコミックとは別に米国では実在の科学者・技術者を主人公にしたシリアスな作品も数多く作られ若い人に刺激を与え続けています。

古くは、研究に没頭する医学者をヒーローにしたジョン・フォード監督の『人類の戦士』(1932年)があります。日本の分子生物学の草分け、故渡辺格・慶應義塾大学名誉教授は若い頃この映画を観て感動し医学を志したと回想しています。

『タッカー』(1988年)は1940年代に独創的なメカニズムで新しい車作りを目指したもののビッグ3の妨害にあって挫折したエンジニアの物語。こうした“地味な”映画をG・ルーカス製作総指揮、F・F・コッポラ監督という、そうそうたるメンバーで作るところに米国人の車や技術に対する思い入れがうかがえます。

『遠い空の向こうに』(1999年)は実在の米航空宇宙局(NASA)のエンジニアがヒーロー。田舎町の高校生がソ連の人類初の人工衛星スプートニクに刺激されてロケット作りを目指すというストーリーです。

科学技術立国を掲げる日本ですが実在の科学者や技術者をヒーロー、ヒロインにした映画はあまり見かけないのは残念です。矢上を舞台に研究者を主人公にした映画、ビデオを企画して世界に発信しようという人はいないでしょうか？



世界初の人工衛星スプートニク1号
(NASA/Asif A. Siddiqi より)

編集後記

3月生まれの三木専任講師が第3号に登場です。マイクロ・ナノレベルの研究を行っている研究室のメンバーはさぞや几帳面ぞろいに違いない、と研究室をたずねたら、とっくに年が明けたのにクリスマスの三角帽子が！ちょうど論文作成の忙しい時期だったので、片付けるのも忘れて研究に没頭していたのかしら、と微笑ましく感じました。

冗談を言ったり、わざと話を脱線させたり、サービス精神が旺盛で楽しい三木専任講師は、終始なごやかにインタビューに応じていましたが、表紙写真の撮影では、緊張のあまり「何か面白いこと言って！」と助けを求めるシャイな一面をのぞかせました。そういえば、三木専任講師と楽しみに話していた学生達にいざ「三木先生ってどんな人？」と聞くと、とたんに照れて口数が減っていたような。同じ分野のことを考え、同じ時間を過ごしていると性格も似てくるのでしょうか。

さて、駆け足で発行した創刊号からの3号も、ここで一息です。来年度、新入生のにぎやかな声に緑が映えるころ、またお会いしましょう。

(平良沙織)

理工学
Information

慶應義塾先端科学技術
研究センター(KLL)

<http://www.kll.keio.ac.jp/>

KLLは、理工学部・理工学研究科における産官学連携活動を推進・支援する窓口として、2000年4月に設立されました。

企業等からKLLに寄せられるニーズに対し、学内の研究者や研究成果とのマッチングを行うほか、毎年12月開催のKEIO TECHNO-MALL(慶應科学技術展)や年3回実施している産学連携セミナーを通じて、交流の場を提供しています。

第19回
慶應義塾大学理工学部市民講座
「量子を見る、宇宙を見る、そして世界を彩る」

日時:2010年6月19日(土)午後(詳細未定)
会場:日吉キャンパス 協生館 藤原洋記念ホール

参加費無料・事前申込制

身近で旬なテーマを題材に、理工学部を中心とした慶應義塾大学の研究成果を市民・地域に還元することを目的として、1992年から続けられご好評いただいている講座を今年も開催いたします。今回は3人の研究者から、ナノスケールの量子と生命の世界や広大な宇宙を電磁波を駆使して見る技術と、自然の驚異を具現化し芸術に昇華する試みのひとつとしての宇宙線を利用したアート作品をご紹介します。詳細は理工学部ウェブサイトにも5月初旬UP予定です。

新版 窮理図解

No.03 2010 March

編集 新版窮理図解編集委員会
写真 邑口京一郎
イラスト TomoNarashima Tane+1 LLC
デザイン 八十島博明 (GRID)
編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
発行者 青山藤詞郎
発行 慶應義塾大学理工学部
〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1
web版 <http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai>